



国労水戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 塚原良雄
編集責任者 坂本公則

「生命」の尊さを忘れない

水戸駅構内事故から22年

職場・地域の活動に自信を持ち、引き続き、組織拡大に全力をあげよう！

地方本部は毎年3月30日、「生命(いのち)と権利を守る3・30集会」を開催し、人命を大切にする企業風土、安全安心で働き続けられる職場環境に向け決意を新たにしました。本年は、福知山脱線事故・羽越本線事故から10年目、3・30水戸駅構内事故から22年目が過ぎました。

この間、JR北海道会社での線路保守デモ、夕改ざん・修繕放置や相次ぐ列車火災で、国交省から監督命令が出されました。JR東日本会社でも、京浜東北線川崎駅構内で回送列車衝突脱線、常磐線踏切無遮断事故、車両セクター構内脱線事故など重大事故は後を絶たません。

工務協議会からの決意

今日、あらゆる分野で業務委託の深度化が進み、労働条件改善を求める声が広がっています。地方本部は、亡くなられた方々の「死」を無にすることなく、企業の儲けを増やし過労死と格差を広げる法案を阻止し、人命尊重と定年まで安心して働き続けられる職場環境づくりを全体で確認し合いました。

事故の原因追求と背景の検証を団体交渉を通じ迫ってきました。

水戸工務協議会はこれまでも、この事故を風化させないために「3・30事故を風化させず、安全闘争を強化し働くものの生命と健康、安全・安定輸送の確立に全力を挙げて奮闘しよう」とスローガンに掲げ、地方本部と連携し取組み強化を図って来ました。JR会社は3・30事故を受け「構内立ち入り届」の提出を作成を実施して来ましたが、事故は無くならず退避遅延や線路閉鎖区間に列車が進入する事故も発生しています。何故、あり得ない事故が起きるのか、一人一人が原点に立ち返り「会社の脆弱点は安全問題」という位置づけを再確認しなければなりません。

「設備部門におけるメンテナンス体制の再構築」実施から13年が経過し、JR会社



とパートナー会社が一体となり「安全レベルの向上」「技術力のアップ」等を進めるとしてきましたが、大量退職時代を迎えての技術継承問題など課題は多くありますが、今後とも安心して働き続けられる職場の作業環境を確保する為に、「安全なくして労働なし、抵抗なくして安全なし」の言葉をかみ締めながら、工務協議会も一丸となって奮闘することを決意します。